



しまう」などの症状が改善しました。また、10人全てに大きな副作用はありませんでした。

Bの研究では、ADHD児のオキシトシン値は、健常な子どもと比較して低下していることがわかりました。更に内服をしていないADHD児のオキシトシン値は、内服治療をしているADHD児と比較して低下していることもわかりました。また、ADHD児のオキシトシン値が低いほど「失敗をしてしまう」症状が強い傾向があることもわかりました。

### —— 何の役に立つ研究なのか？

これらの研究結果は、ADHDの原因解明や今後の治療に有用な情報であると考えられます。

### —— 今後の計画は？

Aの結果からチペピジンヒベンズ酸塩にはADHDの症状を改善させる可能性が出てきましたので、さらに発展させた80人に協力をいただく研究「科研費：古くて新しい革新的ADHD治療-チペピジン-」が進んでいます。

### —— 関連ウェブサイトへのリンク URL

▶千葉大学大学院医学研究院精神医学教室

### —— 成果を客観的に示す論文や新聞等での掲載の紹介

A: Tipepidine in children with attention deficit/hyperactivity disorder: a 4-week, open-label, preliminary study. Tsuyoshi Sasaki, Kenji Hashimoto, Masaomi Iyo 他, *Neuropsychiatric Disease and Treatment*. 10: 147-151. (2014)

B: Decreased levels of serum oxytocin in pediatric patients with Attention Deficit/Hyperactivity Disorder. Tsuyoshi Sasaki, Kenji Hashimoto, Masaomi Iyo 他, *Psychiatry Research*. 30; 228(3): 746-51. (2015)

### —— この研究の「強み」は？

Aにおいては、ADHDの症状に苦悩する子どもたちへの新たな治療になる可能性があり、BにおいてはADHDの診断補助となる可能性があります。

### —— 研究への意気込みは？

ADHDの症状に苦悩するたくさん患者さんが研究に協力してくださいました。その気持ちに応えられるように「目の前の患者さんに最善の医療を提供し、将来はさらに良い医療が提供できるよう努力する。」を理念に努力してまいります。

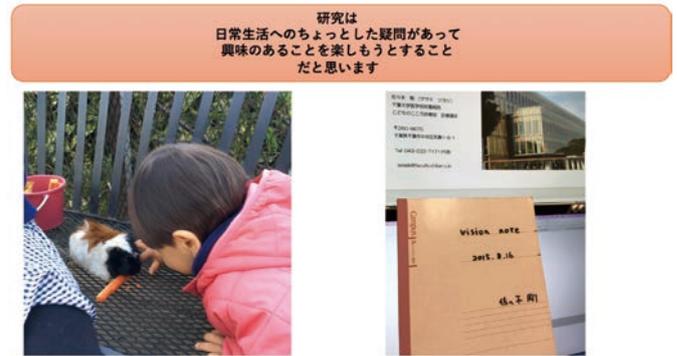


図3：研究の楽しみ

### —— 学生や若手研究者へのメッセージ

ご興味のある方は、是非ご連絡ください。